

水戸に路面電車 復活を



市民有志ら勉強会発足へ

水戸市民有志が、市街地にLRT（次世代型路面電車）の敷設を検討する勉強会「高齢者と環境にやさしい交通まちづくりを考える会」を発足させる。21日に市民会館で、LRTの専門家を招き初会合を開く。路面電車はかつて水戸でも走っていたが、乗用車の普及に押され1960年代に廃止。しかし近年、高齢者などいわゆる交通弱者や地球環境にやさしい乗り物として見直され始めている。

交通弱者、環境に利点

専門家招き
21日初会合

初会合で講師を務めるのは、エコノミストの宇都宮浄人氏。水戸一高から京都大経済学部に進み現在、日本銀行勤務。著書に『路面電車ルネッサンス』（新潮社）があり、LRT研究の第一人者。宇都宮氏は、高齢化社会にマッチした「人によさしい交通まちづくり」の必要性を述べた上で、LRTの長所を説明。さらに自動車との共存や財源問題について触れ、最後に水戸のまちづくりにおける利点を語る予定。宇都宮氏と高校の同級生で同会世話人の岡崎整形外科医院長、早船徳子さん(49)は「市民の一人として、水戸がもっと魅力的で自慢のまちになってほしい」と思っていた。LRT

導入でその可能性があるのか、みんなが考える場にしていきたい」と話している。

勉強会は午後3時半から1階中会議室で。詳しいことは早船さん ☎029(231)4032まで。

LRTは、欧米諸国では多くの都市で基幹公共交通として定着。日本では2006年、富山市に全国初のLRTが開業。横浜市では敷設に向け、市民がNPO法人を設立した。

(藤崎和則)

水戸芸術館前を走るLRTのイメージ写真(早船徳子さん提供)

LRT ライト・レール・トランジットの略称。大型車両を用いる一般的な鉄道に対し、都市内などで運行される軽量の軌道交通。現在は乗降口の低い低床式車両が注目され、新交通システムともみなされている。